

19th Congress of the International Society for Human and Animal Mycology (ISHAM 2015)



石渡 誉郎

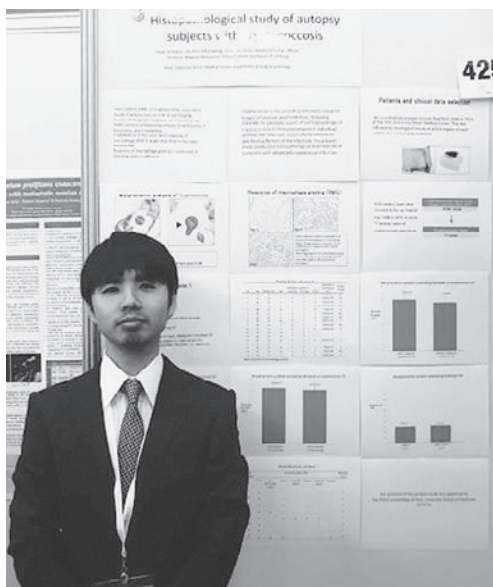
東邦大学医学部病院病理学講座 (大森)

2015年5月4~8日までメルボルンで開催された19th Congress of the International Society for Human and Animal Mycology (ISHAM 2015)に参加させて頂きました。本学会は国際医真菌学会が3年に1回開催している学術集会で、真菌に関わる基礎ならびに臨床の研究者が一同に集う国際会議です。

私が所属している病院病理学講座(大森)(当講座)では深在性真菌症の病態ならびに防御機構の解析が重要な研究テーマの1つであり、なかでも深在性真菌症の分子病理学

的診断法の確立、疫学調査、真菌誘発実験的肺高血圧モデルによる病態解析に関する研究を盛んに行っております。本学会には当講座から澁谷教授、若山講師、栃木講師、大久保講師、篠崎技師長、そして私が出席しました。

学会では各種真菌に関する基礎的研究から診断、治療などの臨床的研究まで多岐にわたるテーマのシンポジウム、口演発表ならびにポスター発表が行われました。私は「Histopathological study of autopsy subjects with cryptococcosis」というタイトルでポスター発表をさせて頂きました。この研究は東邦大学医療センター大森病院に年余にわたり集積された病理解剖症例からクリプトコックス症を抽出し、クリプトコックスの形態ならびに生体防御反応について病理組織学的解析を行ったものです。ポスターセッション



発表ポスター前にて

決められた時間にポスター前に立ち、質問者を待つスタイルでした。数人からの質問を受け、非常に刺激的な(緊張した)時間を過ごしました。



学会場内観

学会場となったメルボルンの Melbourne Convention and Exhibition Centre。国際的な公共施設の賞も受賞した芸術的かつ機能的な素晴らしい会場でした。

ンでは数人の先生方が私の研究に興味を示してくださり、意見交換を行いました。なかでもオランダで主にクリプトコックス症の研究をしている Dr. Ferry Hagen は、私の研究内容に興味を持ち、今後共同で研究を行う可能性もありそうです。また当講座、澁谷教授はシンポジウム「Value of PCR for clinical diagnostics」の座長を務め、若山講師は真菌誘発肺高血圧モデルに関する研究、栃木講師は慢性肺アスペルギルス症の解析、大久保講師はホルマリン固定パラフィン標本を用いた *in situ* hybridization (ISH) 法によ

る真菌症診断と複数の菌株を用いた *Cryptococcus gatti* の動物実験的病原性解析の研究、篠崎技師長は慢性肺アスペルギルス症における細胞診断に関する研究を発表していました。

各セッションからは新たな知見を得ることができました。また、各国の若手研究者と、冷や汗をかきながらの英語でなんとかディスカッションできたことは、今後の研究を進めていくうえで良い刺激となり、本学術集会に参加した最大の収穫となりました。